

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2階あやめ、3階あさがお)

事業所番号	2795000625		
法人名	社会福祉法人 柏樹会		
事業所名	フォレストガーデン くさか		
所在地	大阪府東大阪市日下町3丁目7-14		
自己評価作成日	令和4年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://care-net.biz/27/fg-kusaka/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の皆様に毎日楽しく活発に過ごして頂けるよう、レクリエーションや行事に特に注力し、職員一同取り組んでいます。また地域との連携にも力を入れ、運営推進会議で近隣施設や地域にお住いの方々からご意見を頂いたり、毎月開催している認知症カフェを通して交流の場を設ける等し、利用者様・職員・地域の方々三位一体となり活躍できるよう、日々取り組んでいます。コロナの影響にて最近の2,3年開催していない。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>生駒山麓に位置し、石切公園や桜の沿道がある住宅地に開設して7年半、地域との交流も順調に運んでいたが、コロナ禍では全てが自粛を余儀なくされている。併設の通所介護と小規模多機能との協働もできない中で、利用者の安心安全と快適な暮らしを支援することに心を砕いている。法人理念「心あるサービス・おもてなしの心を大切に、明るい笑顔・明るい挨拶・清潔な身なりで利用者・家族に接します」を基本に、開設以来在籍の管理者を中心にクラスター発生の危機も乗り越え、改めて利用者一人ひとりにしっかり向き合い、認知症ケアの質を向上させたいとしている。コロナ禍が収束を迎えたら、先ず外出支援と認知症カフェを始めたいと希っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を文明化し、本部においては入職時の指導や折に触れて職員全員で確認する習慣をつけているが、当部署においてはそういった面の整備が不十分であるため、今後整備していきたい	法人理念を基に、「地域の中で《その人らしく》また、笑顔溢れる《快適で安心な潤いのある生活》を送れるよう支援する」を目標に掲げて日々のミーティング時に確認し、実践の振り返りを定着させたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の方々や近隣施設と関係づくりを行い、地域とのつながりが持てるよう活動を行っている	自治会に加入し、月1回の認知症カフェの開催など地域との交流を大切にしてきたが、この2年半余は全てが自粛中である。地域の情報は、民生委員との電話・メールで入手している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回実施している認知症カフェを通して、地域の方への情報発信をしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議を通して、近隣施設や地域の方々との意見交換を行い、日々の取り組みの振り返りやアイデアを得ることで、サービス向上に活かしている	コロナ禍の2年半余にあつて、会議の実施は出来ていない。2ヶ月毎に、書面、電話、メールにて運営状況として、入居・入退院の状況、主な季節行事などの報告を行っている(地域包括と民生委員)が、構成員からの意見取得の策が無く、報告内容の記録の整備も不十分である。	コロナ禍での書面会議は致し方ないが、報告内容の工夫(ヒヤリハット・事故と対応など)、報告に対する意見・提案の聴取、記録の整備を望む。加えて、地域からの参加者が民生委員のみとしているが、参加者増強に努めることを期待する。会議内容に、外部評価の報告挿入を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連携をしっかりと行い、協力体制の構築に日々努めている	公的扶助者在籍で、関係部署とケースワーカーとの連携は密に行われ、業務上の行政との連携連絡も良好である。地域包括とは入居者受け入れなどでの協力体制も良く、コロナ発生に関しての保健所との連携も滞りなく行われたとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアル整備を行い、身体拘束廃止委員会等議論の場を設け、できるだけ拘束にあたらない環境づくりができるよう取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針は有しているが、3月に館内3事業所でコロナクラスター発生があり、その収束に追われたため本年度の適正化委員会は実施されていない。研修に準じたものを、紙資料配布により行っており、適正化委員会を早急に実施するとしている。各フロア出入口はデンキーロック、各人へのセンサーマット使用は無し、各フロアのカメラ設置で不適切な言動は管理者が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して高齢者虐待について学び、当施設での虐待が発生しないよう職員の理解と意識向上に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は少なく、理解できている職員もわずかである		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者が詳細に説明を行い、理解頂いた上で契約の締結を行えるよう実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂いた際は施設内で迅速に報告を行い、反映させるよう行動、会議での検討と発表につなげている	従来は家族来所時に親しく意見交換を行っていたが、コロナ禍では電話やメールを駆使する他、日用品の届時に情報を交換している。月1回の通信に利用者ごとの様子を、管理者が丁寧に書き送り、家族からの返信があるとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議において各部署の代表が集合し、意見交換の機会を設けている	職員会議と称するものは無く、日常的に個人対管理者のミーティングを行い、意見・提案を聴き、相談にも応じ、殆どが管理者の裁量で解決を見ている。総合して館内各部署の代表による会議で話し合い、運営に反映する仕組みとなっており、近時では顕著な事例は無しとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境や日々の業務実績については管理者とユニットリーダーが密に連絡を行い、改善と向上に向けて相談を行っているが、職員がより自己の評価を施設から受けられるよう、評価の場を設けていきたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年12月より各フロアにユニットリーダーが着任し、管理者と連携を取りながら職員を育成する取り組みを始めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあるものの勉強会等の具体的な取り組みを実施するには至っていないため、今後そういったことも検討していきたい		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務スケジュールを明確にし、利用者様とコミュニケーションを取る時間を確保することで「一緒に暮らす」関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの意見を伺ったりユニットから報告する機会を介護職・ケアマネと共同で行うことで信頼関係を構築することに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者様の人間関係も把握し、施設入所後も今までの関係が維持できるよう支援に努めている。	利用者は併設の小規模多機能からの入居が多く、居住感覚も管理者をはじめ職員との馴染み感が継続しており、自然体での馴染みが継続されている。携帯電話でのやりとり、知人などからの手紙、事前申し込みによるガラス越しの面会、月1回の訪問理美容師、テレビでの懐かしい風景など様々な形で馴染みがコロナ禍の中でも途切れていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等の機会を通じ、交流や人間関係の構築ができるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要な際に情報提供を行えるよう関係の維持に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人へのヒアリングやご家族への意見収集を行い、ユニット内の話し合いを通して希望される暮らしの実現ができるよう努めている	昼食後のひと時を利用者の状態・状況に合わせて会話を交わし、思い出や呟き、反語を丁寧に聞き取り、表情の変化を読み取って出来ること・やりたいこと・嫌なことを把握して、その人らしく快適な暮らしの支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に利用者様本人やご家族への聞き取りを行うことで把握に勤めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット職員・ケアマネ・医療職との連携・情報共有をこまめに行い、三位一体でのケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの計画を通して、現状に即したサービス提供ができるよう施設からの情報提供や意見収集に努めている	職員との日常でのミーティング、介護経過録、モニタリング、医師・看護師の所見、家族からの聞き取りを規定に、長期1年・短期6ヶ月の介護計画を更新時(6ヶ月)に、状態変化に応じて見直しを行っている。家族には電話・メールで説明、郵送で確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活録やケアプラン実施記録を残し、情報共有する体制をつくることで介護計画の実践・見直しに取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりのニーズに合ったサービスの提供ができるよう、部署間で連携しながら多様な提案ができるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携をとり、利用者様が地域の中で活躍や交流が持てる体制を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携をとり、利用者様本人が希望し必要とされる医療を適切に受けられるよう援助している	毎週利用者は全員事業所のかかりつけ医の診察を受けている。薬が変更になった時や診察結果は電話や手紙で家族に報告している。内科以外で受診が必要な時はかかりつけ医が紹介状を書いてくれ受診につないでいる。週1回歯科衛生士による口腔ケアを実施し治療が必要な時には歯科医の診察が受けられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とこまめに連携をとり、必要な医療を受けられる体制づくりを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時も医療機関と連携をとり、情報提供や退院時の情報確認を確実に行うよう、施設内で体制を立て実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで整備されていなかった終末期の対応について徐々に着手し実施しており、今後明確なマニュアル整備等を実施していきたい	入居契約時に重度化や終末期の方針について説明し、看取りの時期になった時改めて家族の意向を確認している。常に医療行為が必要になった利用者の家族が入院ではなく事業所に併設されている小規模多機能施設に移ることを希望し、そこで最期を迎えたという事例がある。看取りマニュアルを作成し、開設以来4名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル整備を行い、対応できる体制を整えているが、職員の実践力には課題が残るため今後訓練の場が必要と考える		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の災害訓練や消防署の指導を受け訓練を行っているが、地域との強力体制等今後さらに構築していくべき課題もある	今年度7月に夜間想定で火災の自主訓練を実施した。災害時の備蓄品は食料を1週間分と20ℓの水を3本準備している。事業所の近くに住んでいる職員が複数名居るので緊急時に連絡が取れるよう職員連絡網を作成し対応できるようにしている。保管場所が狭く水の保管量は少ないが地域の人たちの協力が得られるよう働きかけは行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時の指導マニュアルや、日々の管理者やリーダー等からの指導を通して、実践できる取り組みを行っている	職員接遇マニュアルを作成している。4月に接遇マナー研修を実施し、来年2月に個人情報に関する研修を予定している。トイレのドアは必ず閉める、入室時にはノックするなど当たり前のことをして利用者の尊厳を保持している。言葉遣いがきつかったり不適切な対応が見受けられた時にはその場で注意し再発防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の意向をしっかり理解できるよう働きかけをユニット内で行い、職員にも心掛けの指導を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の暮らしを第一とすることを職員に指導し、それを実践するための業務マニュアルの作成や意識向上に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人やご家族の希望を聞き取り、実践できるよう支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や健康状態に配慮した食事形態を提供しつつ、ひとりひとりが楽しめる食事の提供をし、また準備等協力頂けるものは積極的に参加を促している	食事は出来上がったおかずが届けられるので、利用者と職員で盛り付けをしたり、食器を洗ったり、テーブルを拭いたりしている。コロナ禍以前は外出に出かけたり夏には流しそめん、職員と一緒に食事をしていたが、現在は外出に行くことも利用者と職員と一緒に食事をすることもできていない。誕生日にケーキを作ったりお好み焼きをして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は数値で記録し、栄養状態の把握とそれに応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアも管理し、適切な支援を行うこと、歯科往診時の指導も取り入れケアしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援を前提として、残存能力の活用やトレーニング等自立を目指した支援を行っている	利用者のうち5名は布パンツを使用し、自分でトイレに行っている。リハビリパンツを使用している利用者は体を動かしたりその人の排泄のサインを見つけ、様子を見ながらトイレ誘導を行っている。排泄が自立している利用者も失敗しないよう夜間は声掛けをすることもある。できるだけトイレで排泄ができるよう支援し、現状が維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況も管理し、医療職と連携しながら食事摂取の工夫や服薬を通して便日予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やADLに合わせて、入浴が楽しめることを前提とした入浴方法の実施と援助を行っている	月、火、木、金曜日の午前中を入浴日として1日に4～5名の入浴を行っている。重介護の利用者2名はシャワー浴にて清潔保持を行っている。同性介助を希望する利用者には同性で介助し、入浴中はできるだけ会話をしながらリラックスして入浴ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活ペースを尊重し、安心して休息できる生活リズムの維持に勤めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を介護職が理解できるよう情報を管理し、医療職と連携しながら支援できる体制を構築している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの趣味や嗜好を理解し生活の中で楽しみができるよう支援しつつレクリエーション等を取り入れ日々彩りができるよう援助している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出できるよう、職員の同行やご家族への協力を求め実施すると同時に外出行事も計画することで支援を行っている	新型コロナウイルスの感染拡大以前は施設の車を利用して家族の協力を得ながら他市にあるテーマパークに遊びに行っていたが、感染が拡大してからは事業所から受診以外で出かけたことがない。南側の日当たりの良い窓辺で花や草木の緑を眺めて楽しんでいる。コロナが収束して出かけることを心待ちにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について施設マニュアルを設け、安心安全な管理体制の上でお金の使用ができるよう援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様は居室内に携帯電話や住所録を持って頂き、自身の希望にて連絡を取ったり必要な祭は援助を行う体制を取っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間・個人の個室共に、衛生面に注意しつつ環境整備を行い、飾り等生活感が出る取り組みをしながら居心地の良い空間づくりに努めている	フロアは南向きで日当たりが良い。空気清浄機と二酸化炭素濃度測定器を利用して常に換気を行い感染予防に努めている。利用者のテーブルに設置したアクリル板に鯉のぼりやアジサイの花を飾って季節感が感じられるような工夫や、不快な音、臭いがしないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に歓談スペースやテレビスペース等、食事の席以外にも空間をつくることで、ひとりひとりにあった生活空間がつくれることに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた家具やその人に適切な物を使用して頂くことにより安心安全で居心地の良い空間をつくることに努めている	ベッド、洗面台、防災カーテンは事業所で用意されているが、それ以外は利用者と家族で相談してテレビや衣類ケース、家族の写真などお気に入りの物を設置している。居室の掃除は水、土曜日のお風呂の無い日に、またシーツ交換も職員が行い気持ちよく過ごせるような環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安心安全に配慮し管理しつつ、自立した生活が送れる空間をつくれるよう努めている		